

第1回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」を、令和5年11月～12月に4区（モデル地域4地域）で開催した。

1 日時・場所

- (1) 麻生区 令和5年11月18日（土）14:00～17:00 @麻生区役所4階第1会議室
- (2) 川崎区 令和5年11月19日（日）14:00～17:00 @川崎市役所本庁舎復元棟3階301～303会議室
- (3) 幸区 令和5年12月10日（日）14:00～17:00 @幸区役所4階第1～4会議室
- (4) 高津区 令和5年12月17日（日）14:00～17:00 @高津区役所4階第1・2会議室

2 参加者数

- (1) 麻生区 27名（無作為抽出者25名、町内会関係者2名）※事前申込は49名（無作為42名、町内会7名）
- (2) 川崎区 18名（ " 12名、 " 6名）※ " 35名（ " 29名、 " 6名）
- (3) 幸区 27名（ " 23名、 " 4名）※ " 43名（ " 37名、 " 6名）
- (4) 高津区 27名（ " 22名、 " 5名）※ " 44名（ " 38名、 " 6名）

3 欠席者へのフォロー

各区とも欠席者が多数出たため、第1回の内容について欠席者に対するフォローを行い、第2回ワークショップへの参加につなげる。

<フォローの内容>

- (1) 第1回の様子を収録した動画のURL送付（Youtubeで欠席者に対し限定公開）
- (2) 「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」の体験会実施
第1回と同様のプログラムで、「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」及び本市から資産マネジメントに関する説明を行う。
1/19に麻生区役所、1/24に本庁舎、1/28に高津区役所で実施。欠席者はいずれの回にも参加可能。

4 第1回の内容（4区共通）※別添参考資料を参照

- (1) 川崎市からの説明①～地域の公共施設について～
- (2) 「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」をやってみよう
- (3) 川崎市からの説明②
～川崎市の公共施設に関する状況～
～市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて～
～地域ごとの資産保有の最適化について～

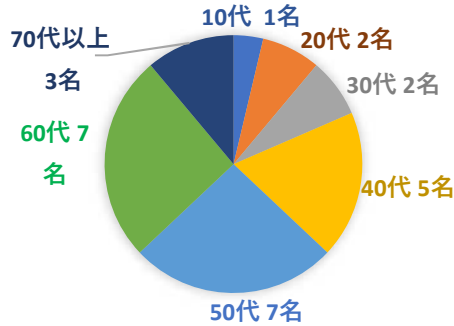


第1回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

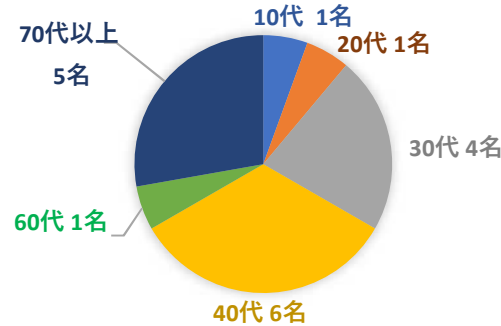
4 ワークショップ終了後に行った参加者アンケートの結果

(1) 参加者の年代

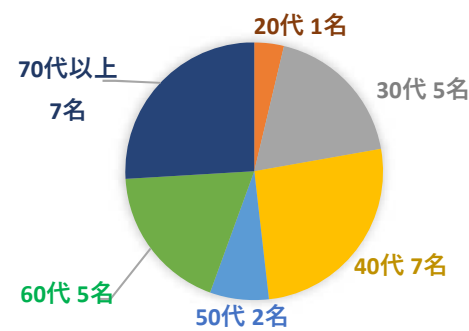
①麻生区 (計27名)



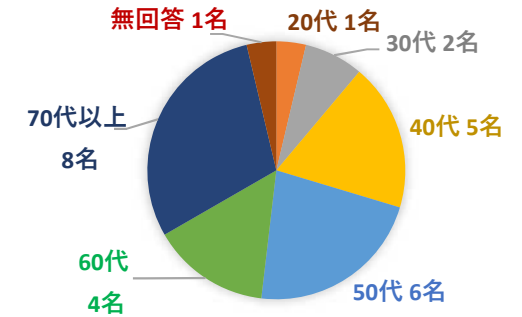
②川崎区 (計18名)



③幸区 (計27名)



④高津区 (計27名)



(2) 今回のワークショップへの参加を決めた理由 (複数回答可)

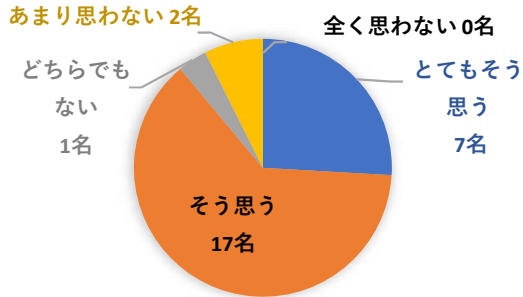
	麻生区 (計27名)	川崎区 (計18名)	幸区 (計27名)	高津区 (計27名)
①川崎市の資産マネジメントの取組に関心があったから	11	6	15	11
②身近な公共施設の使い方に関心があったから	21	11	20	17
③今回のワークショップ全体の内容が面白そうだったから	6	3	5	6
④公共施設の未来体験ゲームが面白そうだったから	3	3	3	3
⑤届いた資料のワークショップの日程を見て、参加できそうだったから	6	5	4	7
⑥謝礼が出るから	5	1	2	2
⑦他の人にすすめられたから	1	4	2	2
⑧その他	3	2	3	1

第1回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

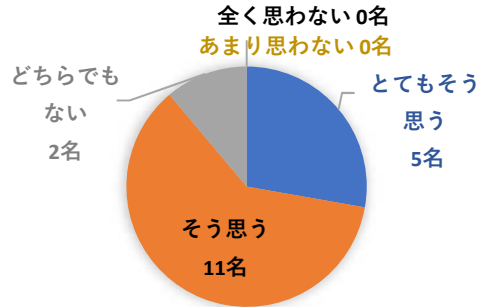
4 ワークショップ終了後に行った参加者アンケートの結果

(3) 公共施設の未来体験ゲームは楽しかったか ※「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」で回答（以下の(4)(5)も同様）

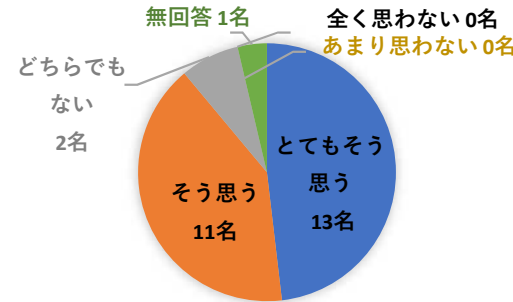
①麻生区（計27名）



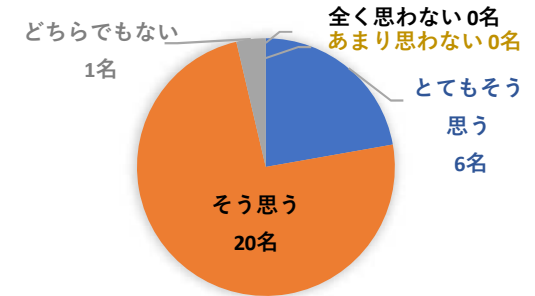
②川崎区（計18名）



③幸区（計27名）

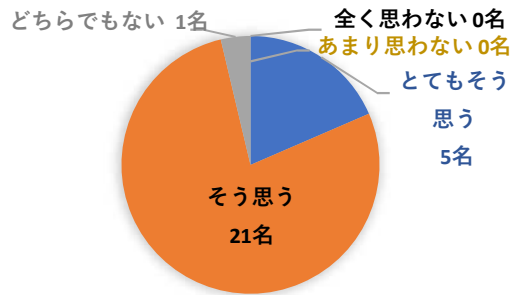


④高津区（計27名）

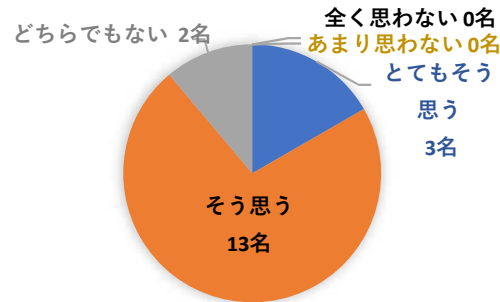


(4) ワークショップを通じ、資産マネジメントの考え方や取組を理解できたか

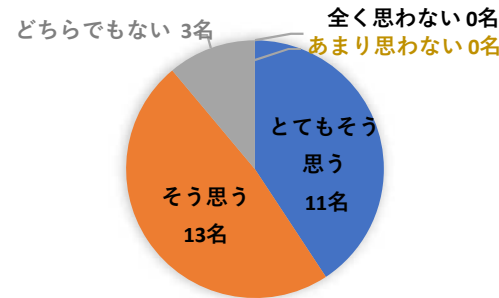
①麻生区（計27名）



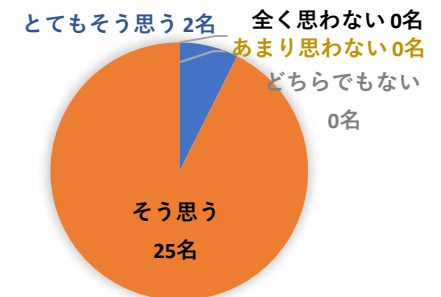
②川崎区（計18名）



③幸区（計27名）

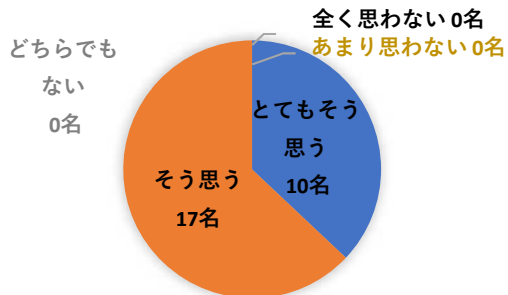


④高津区（計27名）

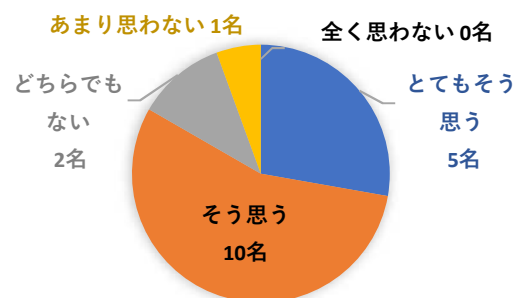


(5) ワークショップを通じ、地域ごとの資産保有の最適化への関心は高まったか

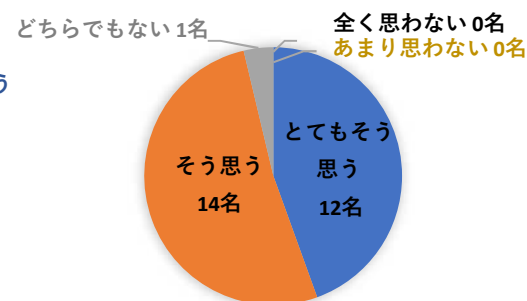
①麻生区（計27名）



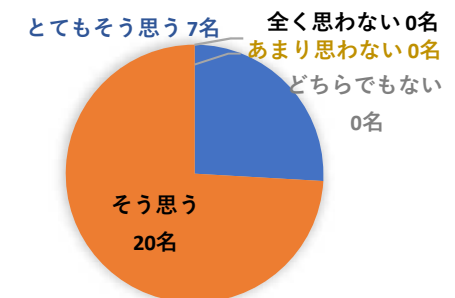
②川崎区（計18名）



③幸区（計27名）



④高津区（計27名）



第1回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

4 ワークショップ終了後に行った参加者アンケートの結果

(6) 参加者からのコメント (一部抜粋)

①麻生区

- 自分たちで町を作っていく感じが難しかったけどとても楽しかったです。(10代)
- ゲームがとてもおもしろかった。ぜひじっくり時間をかけて考えてみたいと思った。(20代)
- ゲーム難しかった。説明で理解した。(30代)
- 施設は作って終わりでないことを今日のワークショップで知ることができた。(40代)
- どんな公共施設があるのかを、そもそも良くわかっていませんでした。今後は目線が変わると思います。(50代)
- 少子高齢化、建物の老朽化を踏まえた資産保有の効率化の必要性を感じた。(60代)
- ゲームとはいえ大分考えさせられた。(70代以上)

③幸区

- 簡単に考えてしまいがちな老朽化が思ったよりも深刻な問題になりうると思った。(20代)
- 人、施設の課題が見えてきて、自分の街をどうしていきたいか、自分たちが考える必要性を感じた。(30代)
- 時代の変化に合わせたサービス、施設の変化、最適化を考えることの大切さを感じた。(40代)
- 地域全体のバランスは考えたことがなかったが、今回の体験で関心が高まった。(40代)
- 理解できた。クリアにとらわれたところがあり、もう一度やると全く違う結果になりそう。(50代)
- 各施設でダブルサービスが多いので、集約化を促進することで財政難の問題はあっても公共施設の維持は可能で、市民サービスの向上も図れることがよく理解できた。(60代)
- 町の型が中心地と住宅地にあまり差が生じていないため、難しかったです。10年単位の地域サービス提供はシニアか子どもか選定できず、難しい。(70代以上)

②川崎区

- お金や人の流れ、人口、世代など様々な事を同時に考えないといけないんだと思いました。(10代)
- お金がないなら、なにもできない。(20代)
- 新しい建物などを建てるのではなく、今あるものを生かすことをしていけると思います。(30代)
- 老朽化した建物が多いという事なので、今後の利活用が重要だと感じた。(40代)
- 本日の導入パートにより、次回の具体的議論が楽しみになりました。(40代)
- ゲーム感覚で色々なアイデアが出るとは思わなかった。(60代)
- 将来の川崎について考えを新たにし、将来を思うといささか心配になった。(70代以上)

④高津区

- ゲームのルールを理解するのが難しかった。子ども、働き手の少なさが目に見えるのが印象的だった。(20代)
- 使われてない施設をどのようにすれば利用が増えるのか考えるきっかけになった。(30代)
- 無駄なく施設を利用できると効率が良いが、集約しすぎると遠方では大変…など問題点が見えてきました。(40代)
- これまでは(どうせ)あまり変わらないのではと感じていたが市や区でもいろいろ考えているのが伝わってきたし、身近に感じるようになった。(50代)
- 次世代につながる未来志向からゲームを楽しめた。実際の行政もこういう視点が必要と思います。(60代)
- 2次元のシミュレーションなので十分な検討は至らないと思った。(70代以上)
- 資産マネジメントということにほとんど考えたことがなかったので、今日は漠然としたことしか考えられなかった。ただもっと身近な問題として考えてみたいと思った。(70代以上)

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」について ～概要～



第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」について ～概要～

【第2回ワークショップの日時・場所及び次第（案）】

○日時・場所

- ・麻生区 令和6年2月4日（日）14:00～17:00 @麻生区役所4階第1会議室
- ・幸区 令和6年2月10日（土）14:00～17:00 @幸区役所4階第1～4会議室
- ・川崎区 令和6年2月17日（土）14:00～17:00 @川崎市役所本庁舎復元棟3階301～303会議室
- ・高津区 令和6年3月2日（土）14:00～17:00 @高津区役所4階第1・2会議室

○次第（案） ※4区共通

- 14:00 開会、あいさつ、本日の目的説明
- 14:05 川崎市による説明① 第1回ワークショップの振り返り（資料1 P3～P6の内容）
- 14:10 自己紹介・参加者間での第1回の振り返り
- 14:20 川崎市による説明② モデル地域全体の状況説明（資料2の内容）
- 14:30 意見交換① 地域の魅力的な将来像を考える（資料1 P9、P11の内容）
- 15:30 休憩
- 15:40 意見交換② 魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考える（資料1 P10～P11の内容）
- 16:30 発表・まとめ
- 16:45 今後のワークショップの進め方について（資料1 P12の内容）
- 17:00 閉会


第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」について ～意見交換～

第1回の「公共施設の未来体験ゲーム」では、「魅力的な地域は何か？」からスタートして公共施設の使い方を考えた。一方、実際の地域でいきなり「魅力的なモデル地域は何か？」と聞かれても、実感がわかず答えが出づらと思われる。そこで、第2回では「20年後にモデル地域にいるだろう人」をスタートとして、魅力的なモデル地域を考えることとした。

1 地域の魅力的な将来像を考える

(1) どんな人がまちに居て、どのようなニーズがあるのかを考える

モデル地域全体の状況説明も踏まえ、20年後、「モデル地域にこんな人がいるだろう」を想像し、以下のような「ペルソナ」（架空の人物像）を作成。「ペルソナ」は、自分に近い人でも、全く違う人でもよい。（考えられる20年後の状況を設定する：IT化の更なる進展、AIの普及、人口減少など）

人物のイメージ	どんな人
	アマチュア ハンドメイド作家 子育てしながら作品をつくり月に1回イベントに出店している <input checked="" type="checkbox"/> 区内在住 <input type="checkbox"/> 区内在勤 <input type="checkbox"/> 区内在学
	2. ・ハンドメイド作家が集まる手作り市が、毎月日曜日に区役所前で開催されていて、常連で出店している ・出店仲間の中でお店を出した人がいて自分もそれに向けて準備中

ペルソナの「やりたいこと」（＝ニーズ）を書いてもらう

人物のイメージ	どんな人
	仲良し3人家族 サラリーマンの父、自宅で仕事をする母、小学生男子 <input checked="" type="checkbox"/> 区内在住 <input checked="" type="checkbox"/> 区内在勤 <input checked="" type="checkbox"/> 区内在学
	・スタジアムにたまにスポーツ観戦に行くのが楽しみ ・新しい公共施設はテレワークできるスペースがあるのでよく利用する

一から考えるのは難しいので、「仲良し3人家族」など、例を複数用意しておく（一から考えるのももちろん可）

(2) モデル地域の魅力的な将来像（地域がこうなっているとよい）を考える

(1) で出した、ペルソナの「やりたいこと」を実現させるための課題（必要なこと）を出し合う。

(例1：やりたいこと「親子で楽しむ」⇒課題「親子で楽しめる場所がない」、例2：やりたいこと「定年後、地域で活動したい」⇒課題「地域での繋がりが希薄」)
出てきた課題を整理した上で（類似のものは括るなど）、「地域がこうなっているとよい（地域がこうなると、課題が解決され、ペルソナが自己実現できる）」ということについて話し合う（例：親子で楽しめる場所が身近にできる、地域での繋がりが生まれる など）。

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」について ～意見交換～

2 魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考える

意見交換1で出した**モデル地域の魅力的な将来像**を実現するために、**公共施設をどのように利用できると良いか**を出し合う。
参加者が施設のイメージを持てるよう、意見交換に際しては、以下の、第1回ワークショップで使用した「川崎市の主な公共施設」を活用する。

【意見交換の主な視点】

第1回ワークショップでの「市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて」の説明や「公共施設の未来体験ゲーム」を踏まえ、「**誰が・どのような内容で利用できるとよいか**」「**そのためには、どのような方法が必要と考えられるか（時間帯／利用対象／利用目的の緩和etc.）**」などを主な視点として意見交換を行う。

公共施設の使い方を、端的な言葉でキーワードとしてまとめ発表する。

(例：誰でも使える施設を増やそう／地域で集まれる場所づくり)

(川崎市の主な公共施設) ※一部抜粋

区役所・支所・出張所

施設数：
区役所→7施設、出張所→4施設
支所 →2施設



老人いこいの家

老人いこいの家は、老人に対し、健全ないこいの場を提供し、もって老人の心身の健康増進を図ることを目的とした施設です。
施設数：市内48か所
利用時間：午前9時～午後4時
利用資格：市内居住の60歳以上の方



市民館・市民館分館

市民館は、市民の生涯学習を支援するための社会教育施設です。「公民館」と「文化会館」という2つの性質を兼ね、市民自治を育てていく中心的な学習施設として位置づけられており、多様な市民のニーズに対応する施設を備えています。
施設数：分館含め市内14か所
主な施設：
ホール、会議室、和室、実習室、視聴覚室、音楽室、料理室、体育室、児童室、ギャラリー、グループ室、授乳室他



こども文化センター

こども文化センターは、地域児童の健康を増進するとともに、情操を豊かにすることを目的として、遊びや集団活動を通じ、子どもの健全育成を図る施設です。
集會室、図書室、遊戯室、学習室などがあります。
施設数：市内58か所
※他に民間児童館が1か所あり
利用時間：午前9時30分～午後9時
利用資格：地域の児童と児童福祉関係者及び市民活動団体等

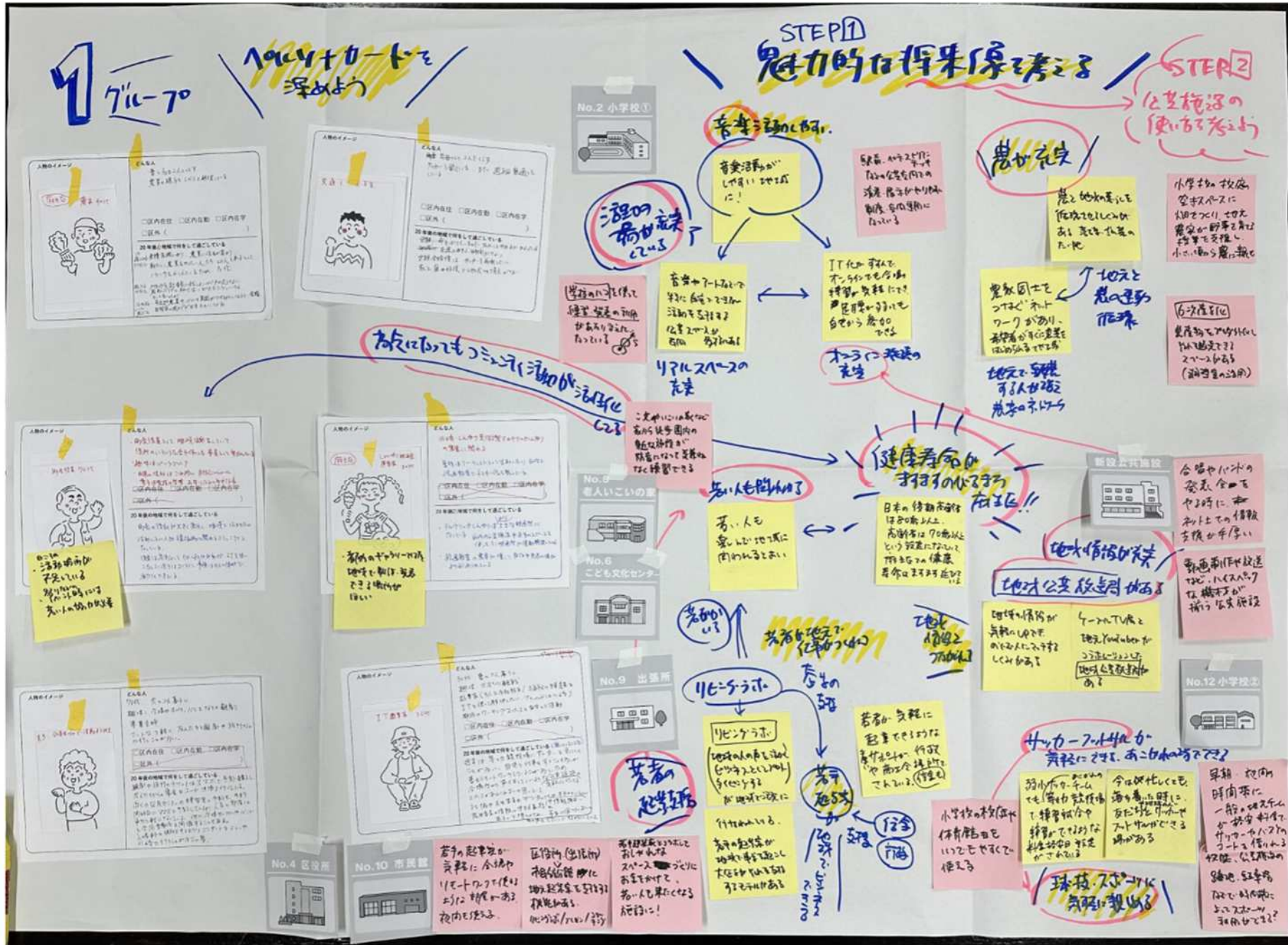


スポーツセンター

スポーツセンター
施設数：市内7か所
主な施設：
体育館、トレーニング室、研修室、ランニングコース、プレイルーム、区民サロン他



(参考) 意見交換のイメージ



今後のワークショップの進め方について

第2回ワークショップの「地域内の公共施設をどのように利用できると良いか」に関する意見交換の内容を踏まえ、第3回以降、モデル地域における具体的な施設の使い方について検討。

全てをワークショップでしっかりと検討するのはとても難しい・・・

モデル地域内には数多くの公共施設が存在。では、**その中からどの施設を検討すればよいか？**

川崎市としては、「老朽化」や「施設の使われ方」（施設の利用状況）が課題だと考えている。

「より老朽化が進んでいそうな施設」や、「施設の使われ方に課題がありそうな施設」を検討したい。

「より老朽化が進んでいそうな施設」や、「施設の使われ方に課題がありそうな施設」については、それだけでなく、**その近くにある施設も併せて検討**することが効果的なので検討したい。

上記の考え方を基に、**ワークショップで意見交換を行う対象とする施設を本市にて選定。**
第3回ワークショップで提示し、意見交換を実施。